

留意すべき人物の共有と、議員会館の警備強化に関する要請 ～国際会議室における衛視臨場について～

入館証の発給についての厳格化、および施設利用のルール徹底

令和5年11月16日 ウイグルを応援する全国地方議員の会 副会長 笠間昇

■ 経緯

令和5年10月30日、衆議院議員会館・国際会議室で開催された国際会議において、衛視が臨場する事象が発生し、私も巻き込まれました。当会会員の議員が罵声を浴びせられ、10分程度にわたり複数の地方議員が被害に遭ったため、留意すべき人物について報告します。当該人物は自身の X(旧 Twitter)にて議員ら複数に絡んだことを自ら投稿し、youtube でライブ配信するに至っております。

我々、“ウイグルを応援する全国地方議員の会”は、地方議会において100以上の意見書を採択に導き、全国各地において日本ウイグル協会と街頭活動や証言集会を行ってきた地方議員組織です。同30日、31日に開催された「ウイグル国際フォーラム」において正規の招待者であり、当会役員が前述の活動を発表するべく登壇しました。登壇後、休憩中とは言え、使用中の国際会議室において、下記の事態が発生した次第です。衛視が臨場するに至った事態は慙愧に耐えません。

状況としては、まず国際会議室内において、当該人物が(登壇者の)小坪慎也(行橋市議)に対し「おい！こつぼしんや！」「おれが誰かわかるか！」「おまええ！」などと大声をあげ、同議員は会議室内であることを憂慮して即時に出入口付近に移動しました。当会の副会長である私、笠間昇(前・綾瀬市議)は間に割って入り、当該人物に対し、「ここがどういう場所かわかっていますか？」と鎮静化を図りました。当該人物は、私に対しても異常な剣幕で、「おまえが代わりに話すか？」などと叫び、一方的に自身の名を告げ、「おまえの名前を言え！ああ？」などと執拗に絡んできました。のち、当会の若手女性議員の、添田詩織(泉南市議)を見かけると、当該人物は更に叫び、これらの状況は10分以上にわたり、ついに衛視が臨場した次第です。当日においては、丸山治章会長(逗子市議)他、複数の地方議員が参加しておりました。国際会議室の出入口付近においては、トラブル発生時にも30名強の関係者がおり、海外の要人や国会議員秘書など多数が目撃しています。当該人物は、ネット上で名指しでの罵倒を未だ続けています。

■ 日本ウイグル協会の厳戒態勢

本件国際フォーラムの事務作業を担ったウイグル協会からは、事前に作成した招待者リストには当該人物の記載がないと回答を得ました。より開かれた会議にすべく複数の民間団体も入室させたかったそうですが、プラスチック製の専用パスケースの発給には留意していたとのことです。特に、国際会議室への入室は厳しく臨んでおり、面識のない人物は入れないよう協会の元幹部らが配置されていました。当該人物が入室を試みようとしたところ、会場入口において、正規の招待者ではないとして入室を拒むという一幕もあったそうです。しかしながら、国際会議という性格上、当日受付では他国の方も受け入れておりました。当該人物が、何らかの方法で議員会館入館証を得て受付に辿り着き、許可を受けた可能性は否定できないと伺っています。

■ 議員会館のセキュリティについて

国際フォーラムの主催側がいかに気を付けようとも、会館の入館証を発給されてしまえば突破されかねないと判明しました。一部事務所の入館証発給が緩ければ、会館付随施設の警備体制も盤石とは言い難い実態にあり、丁寧な運営を試みていたとしても、このような事態が発生してしまうのです。本件国際会議には、我が国の国会議員が40名ほど、また25か国から30名ほどの海外の国会議員が参加していました。別添資料のとおり、当該人物は、迷惑系 youtuber のように扱われておりますが、もし、万一、何らかの危害を加える意図をもった人物が混入していたなら、大変なことになっておりました。

■ 報告書の作成理由

本件の事態は、我が国にとって極めて恥ずかしいことですから、大きな話にしたいくないという地方議員サイドの意向もありました。しかし、当該人物は自ら X(旧称:Twitter)で顛末を公開し、更に、7時間もの罵声交じりの LIVE 配信を行っていることから、表沙汰にせざるを得なくなりました。怪我人なく事態が收拾されたことは喜ぶべきことですが、衛視の臨場を余儀なくされたことについては重く受け止めており、セキュリティの向上を要望します。

一般論として、今後、“迷惑系 youtuber”などが議員会館内に侵入し、自らのアクセスアップのために議員攻撃や凸を繰り返す可能性は否定できません。今後の改善のためにも本報告をまとめることとなりました。また当該人物については、様々な議員を攻撃し続けてきたこともあり、今後の入館においては一定の留意が必要ではないかと考えます。どのような人物であるかは、別添資料の名称を検索して頂き、また同人らの発信内容も youtube などにございますので、そちらも参考の上、ご判断ください。

■ 入館経緯について調査を求めます

国際フォーラムの受付(国際会議室)の出入口付近まで行くことができねば、国際会議室へのパスカードを得ることはできませんでした。当該人物が、事前の招待者でないことは明らかとなっているため、当日の受付において何らかの事情で入室を許されたのだと推測されますが、金属探知機などを通過して一般人として入館し、その場まで来た可能性が残されています。どれほど会議運営側が気を付けていたとしても、そもそも入館証を得てしまえば受付の突破は、やむを得ない部分もあり、会議室利用者が厳格な運営を試みたとしても、利用者側だけでは対処しきれません。当該人物は、当日、国際会議室においてある国会議員と同席していましたが、その理由や関係は不明です。再発防止の観点から、当該人物が議員会館に入館でき、国際会議室の受付まで来ることができた経緯について調査を求めます。しかし現行では調査のルールも未整備なのではないでしょうか。

■ 会館のセキュリティ向上について

元総理が命を奪われ、現総理すらもテロに巻き込まれた今、国権の最高機関である国会の付随施設において、よく分からない人物が入館することができてしまったことは事実です。かつ、衛視が臨場するにいたる騒動が発生したことは重く受け止めざるを得ません。紳士協定のもと運営されてきた入館方法であります。例えば会館受付において身分証の複写を取得する、電子的な対応を導入する等の対策、他国の利害が衝突したり、イデオロギーの対立があるテーマでの会議室利用の場合は警杖をもった衛視を会場周辺にて待機させるなどの対策を求めます。また、一部の事務所が入館を許したときに、もし、他事務所や国際会議室などの会館付随施設に勝手に行ってトラブルを起こした場合などにおいては、入館を許可した事務所が一定の説明責任を負うなどの改善を求めます。以上

(資料)人物の背景

中国系の活動家ではないか？とも噂されましたが、そうではないため調査結果を記します。当該人物は、トラブルが予見されていた人物とも言え、例えば、7年以上にわたって青山繁晴参議院議員を攻撃してきた動画配信者として有名です。当会と青山議員は特に関係はございません。その他にも、議員以外にも執拗に攻撃するタイプの方のようで、一部の国会議員事務所では有名な方でした。攻撃対象の多くが自民系ですが、当該人物は左派系でもなく、保守系と考えるべき活動家です。かつてジュネーブ等に行き、従軍慰安婦に関する日本の名誉回復活動などを実施、これらの活動の結果、浪人中の杉田水脈先生に脚光が集まり国政復帰の一助となりました。当該人物とコンビで動いている方は、所謂「イネ訴訟」の絵を描いたイラストレーター本人であり、客観的事実として一部国会議員との関係は説明せざるを得ません。

令和 5 年 10 月 31 日

衆議院警務部 御中

衆議院議員

担当：

内

要注意人物について通報

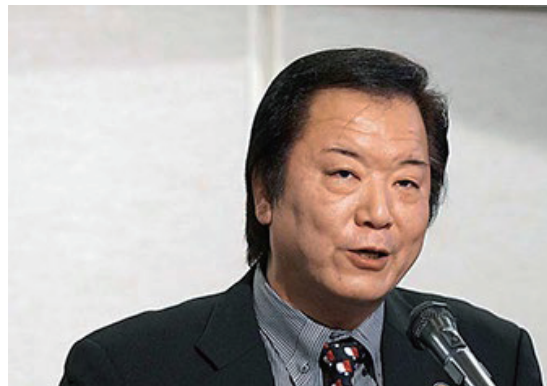
【通報内容】

「藤木俊一」なる人物について、国会各施設への入館に際して注意をされたい。

今後も議員会館等での集会等へ参加をする可能性が考えられるが、会館内での威圧的言動を行う恐れが高い。

【経緯】

- ① 10 月 30 日（月）9 時より衆議院第一議員会館 1 階 国際会議室にて開催されている「国際ウイグルフォーラム」が開催されたところ、当該人物も参加（立場不明）。
- ② 当該会議には、国会議員はじめ各国大使館員、国際機関職員、各国マスコミが多数参加。この中には、国会議員と連携を図る日本全国からの地方議員も多数参加していた。
- ③ 30 日会議昼休憩中に、当該人物が以前より政治的に対立をしている地方議員団に対して「大声で叫ぶ」など威圧的言動を行い、衆議院第一会館内の衛視多数の臨場を余儀なくされた。
- ④ 地方議員団や一部国会議員からも要注意人物として注意をすべきとの指摘あり、衆議院警務部への通報を検討。



各 HP 等より引用「藤木俊一」